

### 1 アドレスを複数機器で共有

インターネットのブロードバンド化とサービスの低価格化が進むにつれて、それに対応する機器も登場している。その中でも、ADSLやCATVを利用したブロードバンドインターネット接続サービスの普及にともない、次々と新製品が登場しているのがブロードバンドルーターだ。ブロードバンドルーターとは、ブロードバンドインターネット接続サービスに特化した機能と性能を持つルーターのことである。

個人向けのインターネット接続サービスでは、プロバイダーから割り当てられるIPアドレスの多くは、1つの場合が多い。インターネットにアクセスする機器が1台の場合には割り当てられるIPアドレスが1つでも問題ないのだが、そのままでは複数の機器で同時にインターネットにアクセスできない。そこでブロードバンドルーターを利用すれば、割り当てられるIPアドレスが1つでも、複数の機器から同時にインターネットへのアクセスが可能になるのだ。

また、ブロードバンドルーターを利用して複数の機器からインターネットへのアクセスを行うときに、NAT/IPマスカレードといった技術が使われる。この技術を使うことによって、ユーザー側に設置している機器に対してアクセスができなくなるため、簡易なファイアウォールとしても利用でき、セキュリティ面でのメリットがある。

### 続々参入するメーカー群

個人向けのブロードバンドルーターは、2000年春にLinksys社「The Linksys Instant Broadband EtherFast Cable/DSL Router」が国内代理店から3万円台で発売したのが最初だ。1999年には国内でもすでにブロードバンドルーターとして利用できる機器が発売されていたもの

の、価格が5万円前後であることや設定が難しいため個人向けと言えるものではなかった。

2000年春に登場した当時は3万円台だったブロードバンドルーターは、ADSLを使ったインターネット接続サービスが正式に開始された2000年末には一気に1万円台半ばまで実売価格が下り、2001年に入って1万円前の製品が数多く発売された。同時にブロードバンドルーターを発売する国内メーカーも増え、さまざまな製品が登場した。コレガ、プラネックスコミュニケーションズといったネットワーク機器を中心とした周辺機器メーカーだけでなく、メルコやアイ・オー・データ機器、YAMAHAといったパソコン周辺機器メーカー、NECや富士通といったコンピュータ総合メーカーまで、さまざまなメーカーが市場に参入している。

### 高スループットでFTTH対応製品も

当初、ブロードバンドルーターはCATVやADSLを利用したインターネット接続サービスに対応すればよく、通信を処理するスループット（2つのシステム間のデータ転送速度）性能も数Mbpsから10Mbps弱程度の製品しか存在しなかった。しかし、より高速なFTTHサービスの開始により、数十Mbpsといった速度に対応する高いスループット性能を持ったルーターも登場した。この高スループット性能を持ったブロードバンドルーターとしては、2001年夏にマイクロ総合研究所の「NetGenesis OPT」が約2万7000円で発売されて人気を得ていたが、その後2001年末から2002年に入り、ブロードバンドルーターを手がけていた各社が次々に1万円台半ばの低価格帯の製品を市場に投入し、スループット性能が10Mbps以下の製品との価格差が縮まっている。

### UPnPへの対応が欠かせない

また、2002年になるとWindows XP搭載パソコンの普及により、UPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）もブロードバンドルーターのキーワードの1つになった。UPnPは、パソコンと周辺機器の間で情報をやり取りする規格の1つ。UPnP対応であればネットワークの物理的な接続さえすれば、OSやアプリケーションの設定をユーザーが行わなくてもネットワークが構築できてしまうのだ。そのため、今後発売されるほとんどの個人向けのブロードバンドルーターは、UPnPへの対応が欠かせないものとなるだろう。

ブロードバンド環境では、いつでもインターネットを利用できる常時接続が可能のために、インターネットからの不正アクセスが懸念される。そのため、よりセキュリティを重視したブロードバンドルーターが登場した。そのなかでもトレンドマイクロ社「GateLock X200」は、ウイルス情報を自動的に更新し、コンピュータウイルスがユーザー側の機器に侵入するのを阻止してくれる製品として注目された。

### 今後はIP電話や無線LANがポイント

NAT/IPマスカレードを利用した環境では動作しないソフトが一部存在する。それらのソフトを動作させるための独自機能やUPnPに対応した製品が登場した。特にIP電話に対応しているかどうかのポイントになるだろう。また、ADSLモデム内蔵やプリントサーバー機能、無線LAN機能を搭載した多機能な製品も登場してきた。

（一ヶ谷兼乃 ITコンサルタント）



## [インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ [iwp-info@impress.co.jp](mailto:iwp-info@impress.co.jp)